



黒部エドヒガンザクラ 高山村提供

# 須高保護だより

第4号

平成27年3月1日  
発行須高地区保護司会  
編集総務部

ごあいさつ

高山村長 久保田勝士



須高地区の保護司会の皆様に

は、平素から行政の各般にわたり、ご支援ご協力を賜り厚く御

礼申し上げます。

皆様には今日の複雑な社会環境のもとで、不幸にして犯罪や非行を行つた人達の更生保護活動をはじめ、青少年の健全育成や非行防止、さらには犯罪のない明るい社会づくりのために、崇高な社会奉仕の精神により献身的にご尽力をいたしておりますことに心から敬意と感謝を申し上げます。

最近の犯罪は、保険金や薬物乱用に絡んだ悲惨な事件や子供が犠牲となる痛ましい事件など、凶悪・粗暴な事件が多発しております。

こうした背景には、隣近所のふれあいや繋がりが減少し、地域社会における人間関係が希薄になつたこと等により犯罪や非行を防止する地域の力が減退していることも一因といわれています。

また、再犯率の高さも問題となつており、犯罪を犯した人達の自立のための就労支援など、更生、再犯防止に向けた支援が大変重要となつております。

こうした中で、地域の様々な立場の人々が手をたずさえ、地域の非行や犯罪をなくすとともに、非行少年や犯罪者を更生させていく力が地域社会に求められております。

高山村では、平成二十七年度から第五次高山村総合計画後期基本計画が始まりますが、「ずっと住みたい安全・快適な村づくり」の計画に沿つて、地域ぐるみでの防犯活動の促進により、社会を明るくする運動をはじめ、地域、学校、関係団体と一緒に強化して防犯や防災の体制をさらに強化し、安全で安心できる地域社会の実現に力を注いでまいりたいと考えております。

皆様には、今後ともなお一層のお力添えをお願い申し上げますとともに、須高地区の更生保護関係団体の皆様のますますのご発展とご活躍をご祈念申し上げ、ごあいさつとさせていただき申

## 須高地区保護司会

会長 輩澤 義文



過激派組織「イスラム国」による日本人人質事件は、日本人を震撼させた。罪のない外国人を次々と殺戮し、それを動画で投稿するという理不尽な行為には、怒りと共に戦慄を覚える。世界各地で勃発している戦乱やテロの根底には、激しい憎悪、貧困、格差などの要因があると言われている。こうした現実を直視しながら、日本の安全と平和を堅持しなければならないと思う。

一方、国内では連日のように殺人事件が報道されている。先日も名古屋市内で女子大生が女性を殺害し、「人を殺してみたかった」と供述したという。知識と倫理との乖離が甚だしいと言わざるをえない。近年、刑法犯の事件数は減少傾向にあると言われているが、危険ドラッグ、特殊詐欺、児童虐待などは増加している。

犯罪や非行を抑止するためにも、社会を明るくする運動の更なる推進が望まれる。

## 須高更生保護女性会

会長 関谷 庸子



前・横山会長より  
バトンを受けまして、早くも一年の大半が過ぎようとして

おります。その間、会員の皆様には、さまざまな女性会活動にご参加をいただき感謝致しております。昨年は須坂市様のご協力を得て、女性会活動に関する記事を大々的に市報およびSTVで取り上げていただき、多くの皆様に活動の内容等ご理解をいただきましたことと存じます。会員数も大変増えましたが、これを機に更なる会員増強に努めたいと思います。

さて、活動も大半が終わり、最後のヤマ場であります「愛の鉢」、座布団ゴマ」の作成にとりかかっております。

この手作りの愛の込もつた製品を今期卒園の園児達に賜っております。子供達が仲良く、楽しい学校生活が送られま

すように願いつつ、女性会の目的である「誰もが心豊かに生きられる明るい

社会づくり」に保護司の皆様方、関係機関の皆様と共に歩んでまいりたいと存じます。

## 須高地区更生保護協力事業王会

会長 林 豊美



更生保護法は、非行や犯罪などの行動に起因し、刑罰や保護処分など、なんらかの司法的処遇を受けた者について、

その正常な市民生活への復帰と、一方刑事政策的には再犯防止を目的として行われる保護をいい、それに関する法の体系を更生保護法という。

私ども協力事業主会は、保護司会の就労支援担当者と連携して、対象者が就職先を見つける事ができるよう、更生保護に対する理解を深める中で事業を進めていきたい。

犯罪を犯してしまったら、その事実は一生背負つていかねばならない。

本人が立ち直ろうと本心から思うのなら、地域社会の人々や行政機関が理解し、協力し合い、手を差しのべるべきだと思う。彼等が挫折をしないよう、保護司の皆様をはじめ、多くの更生保護ボランティアの協力が必要と感じます。

## 第六十四回「社会を明るくする運動」作文コンテスト 受賞者

◎県コンテスト

◆中学生の部

▽優秀賞 一色鞠子＝墨坂2

▽入選 峰村夏実＝小布施2

◎須高コンテスト

◆小学生の部

▽最優秀賞 清水美怜＝仁礼5

▽優秀賞 堀恵輔＝豊洲6 宮尾くるみ＝日野5 堀内大雅＝井上5

▽佳作 池田萌楓＝小山6 古澤琳音＝小山6 中島ふうか＝森上4

黒岩美寿々＝日野5 穂刈未羽＝井上6 小林優那＝旭ヶ丘6 高野慎二＝仁礼6 南澤瑞香＝仁礼6 竹

前志恵＝仁礼6 竹前美紀＝仁礼6 児玉絹香＝高山6

◆中学生の部

▽最優秀賞 斎藤未夢＝小布施1

▽優秀賞 夏目彩希＝墨坂3 中村依歩咲＝小布施1

▽佳作 松澤鈴花＝相森1 奥村莉帆＝相森3 山岸聖奈＝墨坂2

色鞠子＝墨坂2 小渕結月＝墨坂3 中島虹菜＝東3 藤木真葵＝小布

帆＝相森3 峰村夏実＝小布施3

実＝小布施2 宮崎奈穂＝小布施3

## 第64回「社会を明るくする運動」 県・須高作文コンテスト

平成26年度、県・須高作文コンテストが実施されて、「一月二十一日に表彰式が行われた。県作文コンテストでは優秀賞に一色鞠子さん(墨中二)、が受賞された。須高作文コンテストでは最優秀賞に齋藤未夢さん(小布施中二)、清水美怜さん(仁礼小五)、が受賞された。今回は一色鞠子さんと齋藤未夢さんの作文を紹介します。

26年度県作文コンテスト中学生の部優秀賞

### 「決意」

墨坂中学校二年

一色 鞠子

「人の役に立つ事をしよう」これは私がずっと心に決めていた事だ。だが、それを忘れていた頃に考えさせられる出来事が起こった。

それは私がスタッフとして参加して

いた部活の大会での事だつた。ローテーションでまわしていた仕事が自分の番になり、ギャラリーから階段を降りる時の事、途中の踊り場で帽子を被つたおじいさんが、ぐつたりと座り込んでしまつてゐるのが見えた。試合間だつたため、人通りが多く、その事に気づいている人もいた。その時、私

はふと「人の役に立つ事をしよう」を心に決めていた言葉を思い出した。

「私が声を掛けないと、よしつ」

しかし、私はその一步を踏み出す事ができなかつた。「もし、息をしていなかつたら、話しかけても反応がなかつたら…やつぱりやめよう。きっと誰かが、声を掛けてくれるはず。私じゃなくても。」一瞬のうちに自分の心の弱い部分が、自分の心の強い決意を消してしまつたのである。

後から、そのおじいさんは疲れてしまい、寝ていただけだという事を知つた。安心はしたけれど後悔の気持ちの方が強く残つた。私があの場から逃げ出した後、あのおじいさんに声を掛けた人がいると思うと、とても自分が情けなくなつた。もう少しで一步が踏み出せたのに、自分の弱さに負けてしまつた事にとても後悔した。

心に強い決意があつても、それが簡単に気づいている人もいた。その時に、一瞬の自分の弱さで消えてしま

うのはなぜだろう。それは自分の事が考へていなかつたからだと思う。「自分が悲しい、傷つく、辛い」など、自分目線ではなく、おじいさん目線での状況を考えていたら、きっと力強い一步が踏み出させていたと思う。

それは、犯罪を犯してしまつた人も同じなのかもしれない。「これはだめ、やつてはいけない」きっと分かつてははずだし、分かつてゐる事だと思う。でも、それも一瞬の気の緩みや弱さで決意や、理解していた事が崩れてしまつたのではないか。私はそう考える。そして、その理由も私の経験した事と同じだと思う。今の自分の事ではなく、家族や友達、周りの人やこれから自分の事を考えていたら、犯罪を犯す前にやめようと思えるだろうし、もし犯罪を犯してしまつても、二度と同じ事はしないと思う。

人の事を考へているという事は考へられている側はもちろん嬉しいが、考へている側も嬉しい事だ。私は今回の経験と後悔から、これらの事を学ぶ事ができた。

「人の役に立つ事をしよう」私の決意だつたこの言葉は、一見、人の事を考へているように思える。しかし本当は「自分のために」が含まれていた。「人の事を考へて行動に移す」を加える事で、さらに意識が高まつていくと思う。そして、これからは新しい決意として、「人の役に立つ事をしよう」

そして人の事を考へ、行動に移そうか考へていなかつたからだと思う。また、今回学んだ事、考へた事、新しい自分の決意を行動に移していくだけなく、周りにも伝えていかなければならぬと思う。

私だけでなく、他の人も私と同じような経験をした事があるだろう。その後、後悔した人も何も考へず、人任せにしてしまつた人も、自分の決意と行動をもう一度見直してほしいと思う。一人一人が自分の決意を考え直し改める事で、今まで実行する事ができなかつた決意を思い出し、私がそうで

あつたように自分の事しか考へられずたくさんの人が、自分以外の人の事を考へる事で、思いやりが溢れる社会にななると思う。そんな社会では、犯罪や非行、いじめをしてしまつた人、そこから立ち直ろうとがんばつてゐる人が、自分のしてしまつた事としつかりと向き合うための環境ができると思うし、何より犯罪などを未然に防ぐ事ができると思う。

自分の心の弱い部分と向き合い、「人のため」を考えたこの夏休みは、私にとって考え方方が変化した成長のある期間になつた。

そして、どんな状況でも決意を信じて、「人」を思つて行動できる人になろう。

強い心を持つて。

26年度須高作文コンテスト中学生の部最優秀賞

「優しさ」

小布施中学校一年

齋藤  
未夢

【優しさ】というのは、した方もされた方も心が気持ち良くなります。私は、友達から受けた優しさがたくさんあります。

当番の日たったとき 友達に「一緒に職員室まで来てくれる?」と聞いたから、笑顔で「いいよ」と言つてくれました。私は、心の中でうれしい気持ちでいっぱいになりました。また、中学校に入学して、一、二ヶ月のころ、仲良くなつた友達が出来ました。朝、その友達に「おはよー」と言うと、友達も笑顔で「おはよー」と言つてくれ

のはあたりまえかも知れないけど、新しい友達ができた自分にとっては気持ちが良くなるものでした。また、数学が苦手で分からぬ問題がありました。最初は友達に聞こうか迷いました。けど、優しいから大丈夫だと思い、「この問題、どうやってやるの?」と聞くと、詳しく教えてくれました。教えてくれた後に、友達が「私もこの問題よく分からぬから大丈夫だよ」とはげましてくれました。分からぬ事

私は身の回りの優しさに気つきました。同じクラスの女の子が休みました。仲の良い友達だったので、とても心配しました。でも、その子は次日来ました。その時、周りの友達が「大丈夫?」と声をかけていました。その子は、とてもうれしそうでした。

また、小さな優しさも見つけました。「女のお子さんがとなりの子に『ペン貸してくださいよ』と言つていました。「これ優しさなの?」と思う人もいると思います。

しまい 黒板の字が見えなかつたとき  
がありました。私が心の中でずっと、  
「どうしよう」、と思つていたら、とな  
りに座つていた友達が、ノートを差し  
出して、「写していいよ」と言つてくれ  
ました。私は、「ありがとう」と  
言つて写し始めました。でも、心の中  
では、ありがとうという気持ちでいつ  
ぱいでした。

相手が「うれしいな」、「ありがとうございます」という気持ちになるのが「優しさ」だと思います。優しくした方は、うれしい気持ちになり、優しさを受けた方は、ありがとうございますという気持ちになります。私は、これから世界が優しさでいっぱいになつてほしいと思います。相手に優しくできることはとてもいいことだと思います。テレビのニュースなどで自殺という言葉が出てきます。それは、いじめた方が「優しさ」を持たない

う二つよろこびがてかげするよろこなことだつたかもしけないということです。そうだとしても、自分自身が相手に優しくしたいという気持ちがあれば、それはとてもいいことだと思います。けれど、相手がイヤな気持ち、悲しい気持ちになることが分かつていて、悪口を言つたりするのは絶対に良くありません。そんなことをしたら、いじめにつながります。

事例報告

いからだとい思います。私は、これから友達などに優しくしたいと改めて思いました。相手が傷つくようなことは絶対にしないようにしたいです。また、もつと相手のことを思えるようになります。相手にしてあげたら嬉しいだろうな」とか、これを相手にしたらイヤがるだろうな」となど、「良いこと」と「悪いこと」の判断をしたいのです。一人一人が相手に優しくしてあげれば、相手は心が温かくなります。一人一人がもと相手に対して優しくなればもつといい世界になつていくと思います。

いきます。須高地区更生保護協力事業主会の会員でもあり、今まで二人働いてもらつた事がありましたので、事例として紹介させていただきます。

A君は、私が初めて担当した子どもで、少年院再犯であるが院では優秀な子で通っていた。親との面接の様子から仮釈放後の就職が簡単ではないようと思えたが、ハローワークに連れて就職相談したり、協力事業主会の会員といたる事から、刑期が満了になるまでに

私の事業所で働いてもらう事にした。  
従業員にはよく説明したが、担当者は  
悩んだようで、どんな風に接すればよ  
いのか相談に来たが、普通に接してい  
れば良いからとA君を迎えることとし

仕事は真面目に、従業員とも問題なく過ごすことができた。ハローワークにも定期的に向かわせたが、職を探すのは簡単ではない様子であった。会社の暑気払いには、嘔吐した従業員の後始末を進んでやり、信頼関係も深まつていった。ただA君は従業員に、ここにいれば皆に迷惑をかけることにならぬとももらしていた。

いよいよ刑期が満了になり、正社員にしてあげようか考えていた矢先、満了から五日後、A君は南署から友人の参考人として二時に出頭するように言われていてるので行つてきます。私は関係ないので明日朝はきちんと会社に出来ます、と言うので送り出したが、それが最後になつた。

次の日から顔を見ることなく、給料も他人が取りに来、家にお伺いしても顔を合わせることはなかつた。ほどなくして再犯、新聞沙汰となり現在服役している。

## 笑つて話を 聞いてくれる安心感

保 護 司 涌 井 二 夫

一昨年十二月、保護観察官さんから

彼女に連絡の仲介をしてもらつて来訪、往訪をした。

だいた。」「おかげで今はこうして同棲の彼女と結婚し、仕事にも一人前に出られるようになつた。喉もと過ぎれば：忘れてしまうことのないよう頑張つていきたい。」と語ってくれた。

人間とは弱いもので、育った環境、家族、友人等の影響を受けて今がある。一度踏み外した道を戻すことがいかに困難な事なのか、思い知られた。保護司としてもつとやれることがなかつたのか反省もしているが、今後の担当に生かしていくればと思っています。

その後どうしていいか定かではないが、正道をきちつと歩ける生活をしてほしいと願つて止まない。

実はしたのが 紹得してアコたのは眞相は私にも分からぬ。給料も自分で取りに来れなくて他人に来させ、B君ともそれ以来顔を合わせていぬ。

回目といふことから折折なく述べ入れてくれた。しかし、二ヶ月ぐらいした  
ら、従業員が私の経歴を知っていたと  
いうことでやめてしまった。やめる口  
実二つ二つ、内侍の二つ

の保護司からお願いされ、やはり保護観察期間中ということで働いてもらう事にした。B君には、雇う条件として経験をすべて従業員に話をして、B君も納得して入ったのだが、従業員も二四日こなつて、五百元なしだへん

保護観察担当の依頼を受け、「何時までに本人より連絡があり、初回訪問をするように指導してある。」とのことであつた。保護観察担当通知書も送られてきて、「執行猶予付の対象者である」と記載された。

「気持せが落ち着いた」といふ普通に話す、笑つて話してくれる。色メガネでみていない」と感じたのだといふ。

ではあれはいけないことがあるへきた  
と話す話が説教じみてとがつているも  
のだと感じていた。一年間、保護司さ  
んとお会いしある話することで、とても  
気持のよきがござる。

を慮つて来訪日を定めてくれるようになつたのである。

一年を過ぎた今年の一月、「保護觀察を受けている気持ち」を聞いてみた。「これまで保護司さんは上から目線で、られないわけない」というふうに、

